

## 北極観測データの新たな展開 Toward a new phase of Arctic research data activity

矢吹 裕伯<sup>2\*</sup>, 川本 温子<sup>1</sup>  
YABUKI, Hironori<sup>2\*</sup>, KAWAMOTO, Haruko<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立極地研究所, <sup>2</sup> 海洋研究開発機構

<sup>1</sup>National Institute of Polar Research, <sup>2</sup>Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology

北極域は、地球温暖化によって様々な変動が起こりつつある。これまでの研究で、北極海の海水面積の減少、シベリア域での地温の上昇、永久凍土融解、河川流出量の増加、積雪面積の減少等が明らかになってきた。またこれらの変化に伴う生態系及び人間活動への影響も懸念されている。北極圏の環境変化の実態またメカニズムはいまだ解明されていない部分も多くあり、実態把握および、メカニズムの解明が求められている。これまでの研究は、大気、海洋、陸域によって別々に行われてきた。北極圏は大気 海洋 陸面 雪氷からなるシステムであり、それらのシステムはそれぞれ時間スケール、及び空間スケールの異なる現象を含む。これらの異なる時空間スケールでの変動、および異なる分野の変動が複雑に絡み合う北極域の環境変動を明らかにするためには、学際的な研究を通じて、これら複数分野にまたがる観測データや研究結果を集積したデータベースを用いて研究が求められている。

本発表では、国立極地研究所が北極域に焦点を当てた研究プロジェクトで行っているデータ公開の方向性について紹介する。

キーワード: 北極域, 環境, 温暖化

Keywords: Arctic, Environment, Global Warming